独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立那須甲子青少年自然の家

令和８年度教育事業報告書

事業名	日独学生青年リーダー交流事業(地方プログラム)
期日	令和８年８月 31 日(月)～９月７日(月)
会場	国立那須甲子青少年自然の家、
対象	ボランティア活動に従事した経験のある、概ね 16～26 歳のドイツ人学生・青年リーダー
参加者数	10 名(団長１名、学生９名)
趣旨	日本とドイツの青少年団体等でリーダーとして活動する学生・青年等が文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。

事業内容及び成果と課題

〈事業内容〉

研修テーマ「若者の社会参画」、サブテーマ「若者の『声』のあげ方」に基づき、地域で若者の居場所づくりや地域活性化等に取り組む団体・施設を訪問して講話や意見交換を行うとともに、ホームステイを通じて地域住民との交流を企画・実施した。

主な訪問先等及び研修内容は以下のとおりである。

① 黒田原だっぱラジオ；若者の価値観や考え方を発信する取組について
② 西郷村文化センター；「にしごう地域活性盛り上げ隊」の活動について
③ コミュニティ・カフェ EMANON；若者が声をあげられる居場所づくりについて
④ 那須平成の森；五感をフルに使った自然体験を通した自己表現について
⑤ 富岡町 3.11 を語る会※当所で講話を実施；震災経験や復興への思い、若者の取組について

〈成果〉

１　テーマに沿ったプログラムの提供

「若者の社会参画」及び「若者の『声』のあげ方」というテーマに沿い、地域活性化、居場所づくり、情報発信、震災復興など多角的な視点から学ぶプログラムを提供することができた。また、当所としても国際交流事業の受入れを通して、新たな事業展開や地域との連携強化につながった。

２　訪問先における意見交流

各訪問先において、地域づくりや若者支援に携わる方々や学生との意見交換を実施した。ドイツと日本における若者の社会参画の現状や課題について活発な議論が行われ、参加者は多様な視点や考え方に触れることができた。特に、地域の活動に主体的に関わる若者との交流は、青年リーダーとしての視野を広げる貴重な機会となった。

〈課題〉

初年度であったため、事前準備や運営面において改善すべき点が見られた。

・ホームステイ先の決定や調整に時間を要し、受入れ家庭との事前連絡期間が十分に確保できなかった。
・初年度の受入れであったため、プログラム内容や進行について関係者間で共通イメージを持つまでに時間を要した。

今後は、主催団体との情報共有を早期に進めるとともに、年間スケジュールに位置付けた計画的な準備を行うことで、より円滑な事業運営と研修内容の充実を図りたい。

事業の様子



施設訪問



学生との意見交流



ホームステイ家族との交流